

# I 米子水鳥公園の施設概要

## 1. 米子水鳥公園について

中海は、コハクチョウをはじめとする水鳥の西日本屈指の飛来地となっ  
ています。かつて、中海には水鳥の埒(ねぐら)となる浅瀬がたくさんあり  
ましたが、干拓によって浅瀬が次々埋め立てられ、失われていきました。  
そして、米子市の彦名工区の干拓地にできた湿地が、水鳥にとって中海  
に残された最後の浅瀬となりました。そのため、この湿地を水鳥のため  
に残そうと、地元市民による運動が起こりました。

そこで米子市は、この湿地を水鳥の生息地として保全するとともに、  
市民が自然と触れ合う公園として整備し、平成7年10月22日に米子  
水鳥公園がオープンしました。オープン以降、日本各地から多くの方が  
訪れ、中海の自然を満喫して頂いております。

現在、米子水鳥公園は、毎年100種類以上、最大約10,000羽の野鳥  
が確認される、西日本屈指の野鳥の生息地となっています。そして、  
平成17年11月8日には中海の一部としてラムサール条約登録湿地と  
なりました。

平成20年に開催された第10回ラムサール条約締約国会議で、次の  
ような決議が採択されました。

### 決議X.8「ラムサール条約2009–2014年対話・教育・参加・啓発(CEPA<sup>※</sup>)プログラム」

#### 決議文本文段落18

**「18. 締約国会議は、湿地教育センターや関連施設を設立した、あるいは、計  
画中の締約国に対して、それらの施設が湿地や湿地に関わるCEPAにつ  
いての学習と研修の鍵となる場に発展することを支えるよう、そしてそれ  
らの施設が英国の水鳥湿地トラスト(WWT)の湿地リンクインターナシ  
ョナル(WLI)プログラムのもとにあるこうした施設の地球規模の(及び  
発展中の条約地域規模ならびに各国の)ネットワークへ参加することを  
支えるよう奨励する。」**

※CEPAとは、(Communication, Education and Public Awareness)を示して  
おり、広報・教育・普及啓発を意味します。ラムサール条約の第7回締約  
国会議の決議VII.9「条約普及啓発プログラム」で、湿地管理への広報・  
情報伝達(Communication)の重要性が認識されてから使われるよう  
になりました。

このように、ラムサール条約では湿地教育センターの重要性を示し、  
湿地教育センターが地球規模のネットワークに参加することを推奨してい  
ます。米子水鳥公園は、開園当初から中海の湿地教育センターと位置づ  
けて活動し、海外の湿地センターとの国際交流活動にも積極的に取り組  
んでいます。



図1 米子水鳥公園案内図

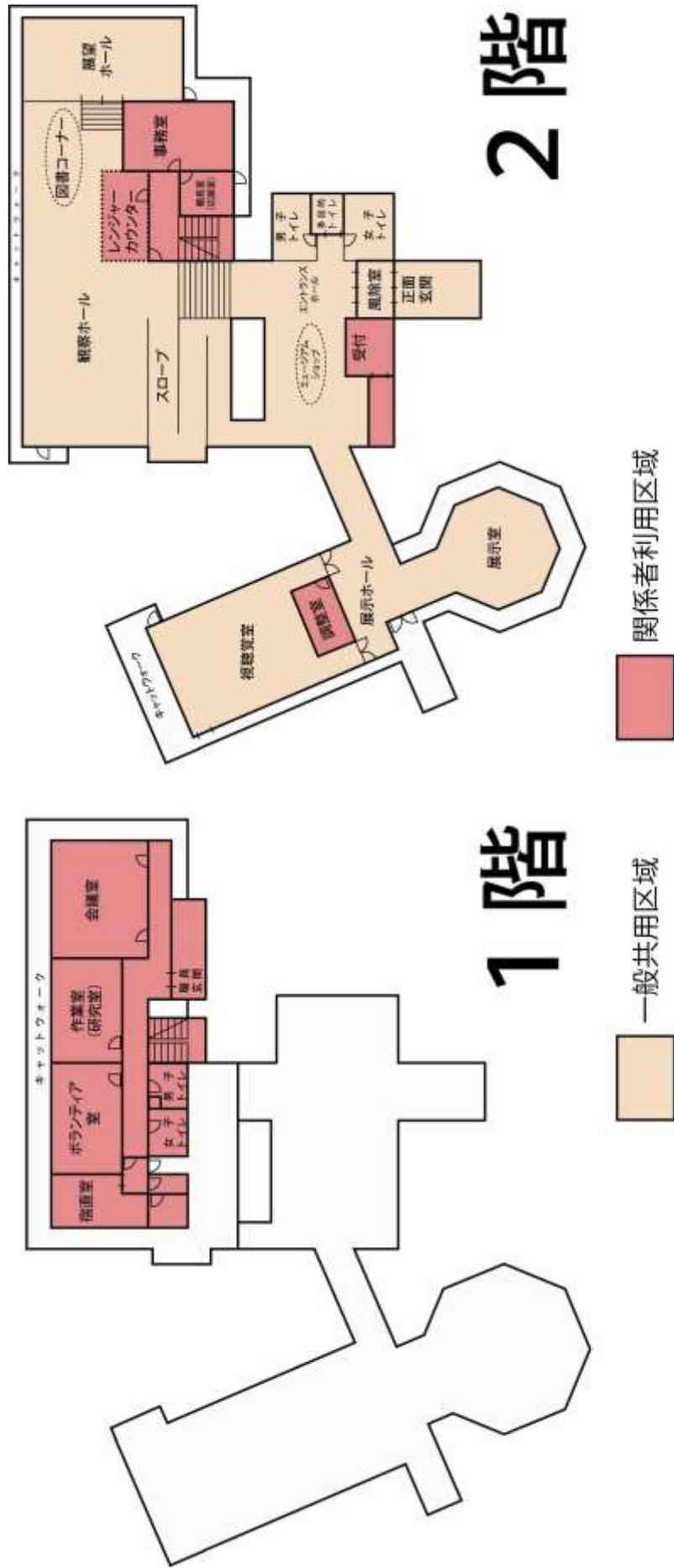


図2 ネイチャーセンター案内図

## 2. ネイチャーセンターについて

米子水鳥公園は、自然観察の拠点として、園内にネイチャーセンターを設置しています。建物は、鳥が嫌う光を反射する素材を使用せず、景観を損なわないよう、木造になっています。また、資材には県内の木材が使用されています。さらに、ネイチャーセンターには指導員が常駐し、来館者の自然観察をお手伝いしています。

観察ホールは前面がガラス張りになっており、遠くにいる水鳥でも快適に観察できるように、多数の望遠鏡が備え付けてあります。また、正面には中国地方最高峰の大山がそびえたつ雄大な景色も臨めます。

鳥に関する図書コーナーでは、野鳥をはじめとした生物や自然について自由に調べることができます。2012年度からは、米子市のふるさと納税「がいなよなご応援基金」によって、展望ホールを個室化して空調設備を備えています。

視聴覚室では、2m×1.5mの大型スクリーンでコハクチョウの生態や米子水鳥公園の自然を紹介した映像を上映しています。

展示室では、水鳥公園や水鳥についての様々な解説パネルや剥製標本、本物そっくりなバードカービングなどを展示しています。また、照明には省エネ対策としてセンサーライトを導入し、人が来た時だけ灯るようにしています。

エントランスホールには、ミュージアムショップ、冷水器、ベンチを備え、野鳥グッズなどのお土産の購入や休憩にご利用いただいています。

### ◆今年度実施した特記事項(ネイチャーセンター関連)

- ・ 正面玄関前階段のすべり止めテープの貼り替え(4月27日)
- ・ 正面玄関前階段のペンキ塗り(5月1日～3日)
- ・ 観察ホール外壁の雨どいの修繕(7月24日) ※米子市
- ・ 視聴覚室前廊下と会議室の窓のアルミサッシ工事(7月28日～29日)  
※米子市
- ・ 2階キャットウォークの修繕(7月31日～9月30日) ※米子市
- ・ 破裂した水道管の修繕と凍結防止工事(2月26日) ※米子市
- ・ 正面玄関の半自動扉の修繕(3月17日)



写真1 玄関前階段のすべり止めテープ貼り換え  
(2020年4月27日)



写真2 玄関前階段の塗装(2020年5月2日)



写真3 観察ホール外壁の雨どいの修繕  
(2020年7月25日)



写真4 会議室の窓のアルミサッシ工事  
(2020年7月29日)



写真5 視聴覚室前廊下の窓のアルミサッシ工事  
(2020年7月29日)



写真6 2階のキャットウォーク修繕工事  
(2020年9月10日)



写真7 破裂した水道管の修繕と凍結防止工事  
(2021年1月12日)



写真8 正面玄関前階段の手すりの修繕  
(2021年2月27日)



写真9 正面玄関の半自動扉の修繕  
(2021年3月17日)

### 3. 米子水鳥公園の管理・運営

米子水鳥公園の管理は、「公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団」が米子市から指定管理者に選定されています。令和3年1月1日から、一部職員の役職名が変更となりました（図3、図4）。

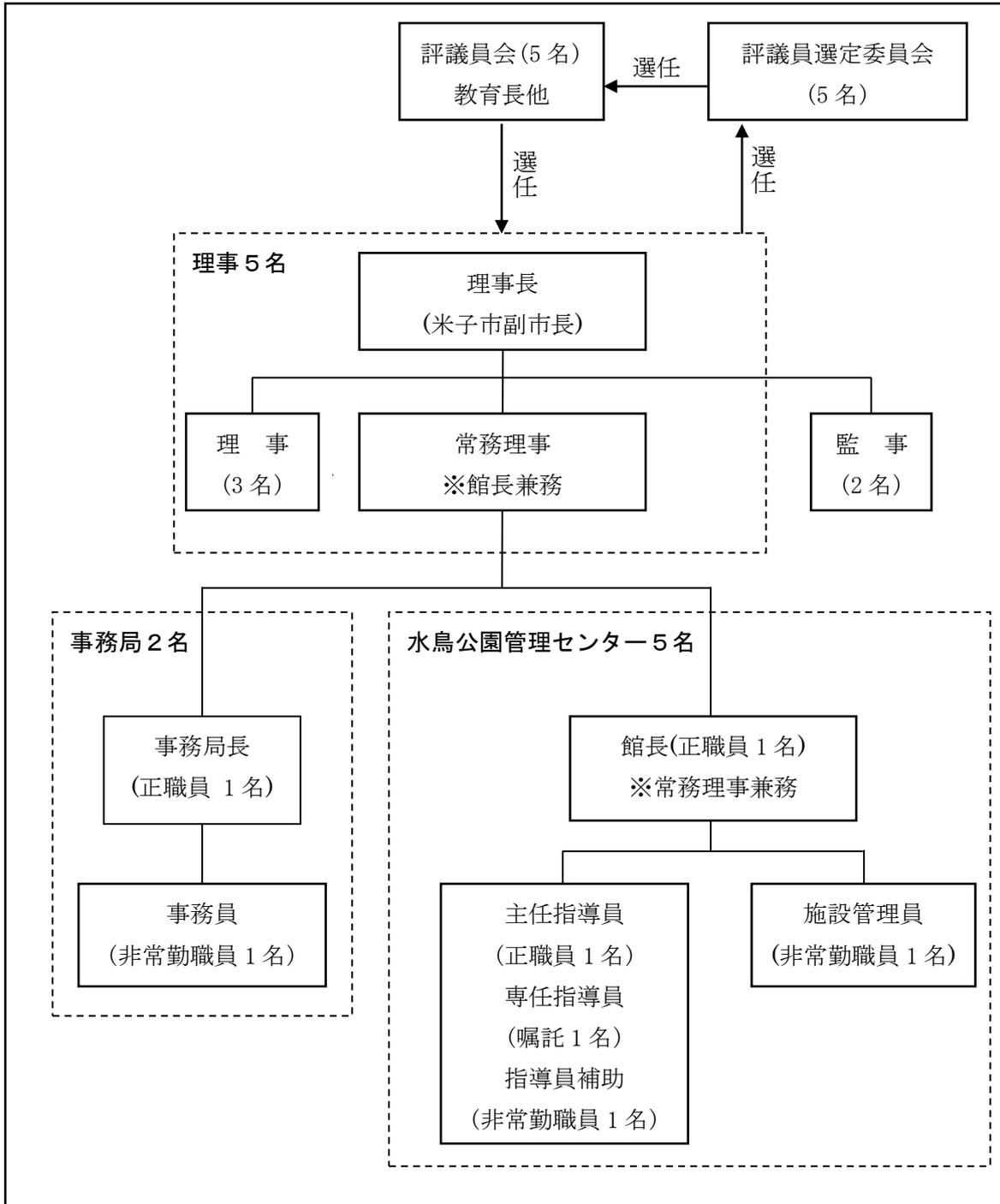


図3 公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団の組織図  
(令和2年12月31日まで)

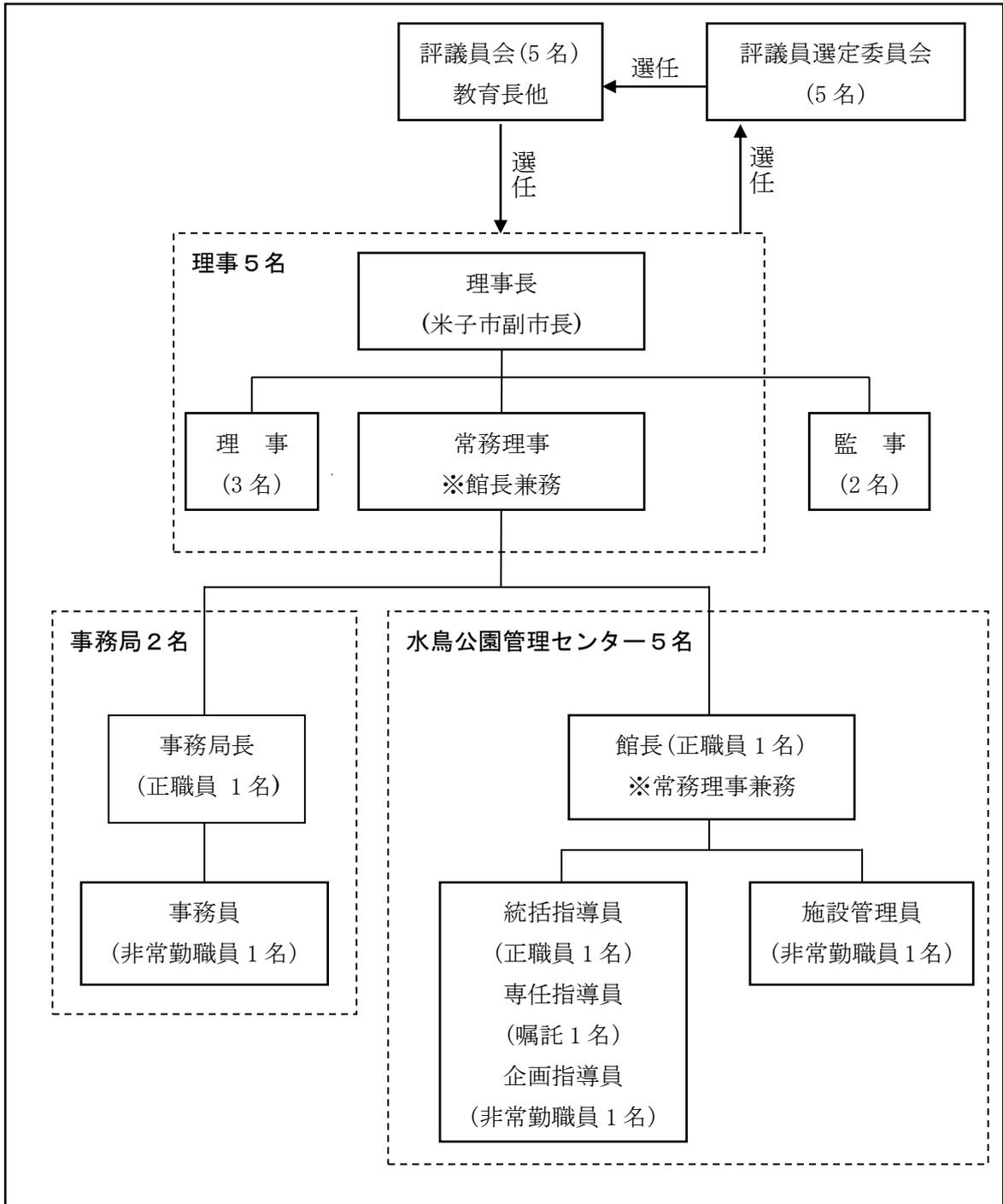


図 4 公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団の組織図  
(令和 3 年 1 月 1 日以降)

## 4. 公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団について

公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団(以降、財団)は、平成7年に鳥取県と米子市が1億5千万円ずつ出資して設立した財団です。平成7年の米子水鳥公園開園当初から米子水鳥公園の管理・運営を受託しています。

財団は、米子水鳥公園の管理だけでなく、鳥に関する調査研究・普及啓発・国際交流を行い、情報発信に努めています。

公益法人制度改革に関連して、当財団は平成25年度から公益財団法人に移行しました。

設 立 平成7年3月31日

基本財産 300,100千円

(鳥取県150,000千円, 米子市150,000千円, その他100千円)

運用方法 鳥取県債10年債で運用(利率年0.40%、受取利息年1,200千円)

### (1) 公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団の設立目的

この法人は、野生鳥類とそれを取りまく自然環境に対する理解を深める機会を提供するとともに、「鳥」をテーマとした環日本海国際交流を推進することにより、もって人と自然の共生する地域づくりに寄与することを目的とする。

※出典：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団定款 第2章第3条

### (2) 公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団の事業

- ① 野生鳥類とそれを取りまく調査研究に関すること。
- ② 鳥を取りまく自然環境等についての知識の普及啓発及び情報発信に関すること。
- ③ 米子水鳥公園の管理運営業務の受託に関すること。
- ④ 「鳥」をテーマとした環日本海国際交流の推進に関すること。
- ⑤ その他前条の目的を達成するために必要な事業。

※出典：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団定款 第2章第4条

### (3) 担当課

鳥取県 生活環境部 暮らしの安心局 水環境保全課  
米子市 市民生活部 環境政策課

#### (4) 公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団の経歴

- 平成 7 年 3 月 財団法人中海水鳥国際交流基金財団設立
- 平成 7 年 4 月 米子市から米子水鳥公園の管理を受託
- 平成 7 年 10 月 米子水鳥公園オープン。開園記念探鳥会を実施。
- 平成 8 年 1 月 第 1 回水鳥の絵と作文コンクール実施(以後、毎年開催。平成 18 年度からは米子水鳥公園絵画コンクールに改称)
- 平成 9 年 3 月 発信機によるコウチョウの渡りルート調査実施
- 平成 11 年 1 月 日本白鳥の会全国大会開催(米子コンベンションセンター)
- 平成 11 年 5 月 第 1 回子ども野鳥クラブ 開催 (以後、毎年開催。平成 18 年度からは子どもラムサルクラブと改称)
- 平成 11 年 9 月 日本鳥類標識協会米子大会開催(米子コンベンションセンター)
- 平成 11 年 11 月 彦名・水鳥ふれあいウォーキング大会開催(以後毎年開催)
- 平成 12 年 10 月 鳥取県西部地震発生。米子水鳥公園の施設に大きな被害を受け、平成 12 年末日まで休園。事務所を旧米子市役所庁舎へ移設。  
米子水鳥公園ホームページ開設
- 平成 12 年 12 月 密猟対策連絡会全国大会(夢みなとタワー)に協力
- 平成 13 年 1 月 元旦から再開園。園内に仮設の事務所と観察舎を開設。
- 平成 13 年 3 月 ロシアの鳥類学者ウラジミール博士を米子に招へい。講演会や鳥類の共同調査を行う。
- 平成 14 年 7 月 神谷指導員が東アジア地域ガンコ類重要生息地ネットワーク・国内コーディネーター着任
- 平成 14 年 11 月 国民文化祭「鳥のフェスティバル」に協力。鳥取県と共催で、第 57 回全国野鳥保護の集いイベント「環日本会野鳥フォーラム」開催(鳥取県立武道館)。
- 平成 15 年 11 月 韓国との水鳥湿地交流を行い、東アジア・シベリア地域ガンコ類シンポジウム 2003(韓国)で研究発表を行う。
- 平成 16 年 11 月 ロシアの鳥類学者アレクサンダー博士夫妻、エフゲニー博士、日本雁を保護する会の池内俊雄氏を招へいし、国際交流講演会を開催。
- 平成 17 年 4 月 環境省グリーンワーカー事業国指定中海鳥獣保護区におけるカワの生息状況調査を受託(平成 17 年以降、平成 19 年と平成 27 年を除き平成 31 年まで継続)。  
滋賀県立琵琶湖研究所受託研究「鳥類による水生植物の運搬機能解析」(平成 17~19 年度)受託。
- 平成 17 年 8 月 財団 10 周年記念シンポジウム「水鳥だけではないラムサル条約」開催(米子市文化ホール)  
水草研究会第 27 回全国集会開催(米子市文化ホール)
- 平成 17 年 10 月 開園 10 周年。記念式典開催。
- 平成 17 年 11 月 第 9 回ラムサル条約締約国会議(ウガンダ)に米子の高校生を連れて参

- 加。第1回 KODOMO ラムサルに参加。
- 平成 17 年 12 月 ラムサル条約登録報告会に高円宮妃殿下を招へい。
- 平成 18 年 11 月 ユリ・ゲラシモフ博士を迎え、国際交流講演会を開催。
- 平成 19 年 7 月 日・中・韓子ども湿地交流 in 韓国・安山(韓国)に、地中海で活動している子ども 4 名を派遣。以後、韓国との交流が始まる。
- 平成 20 年 2 月 KODOMO ラムサル全国湿地交流<地中海・宍道湖>(松江市)に共催団体の一つとして参画。  
第1回「地中海の未来を子どもと語る会」開催  
(以後、平成 24 年度まで毎年開催)
- 平成 20 年 10 月 第10回ラムサル条約締約国会議(韓国)にあわせて、「KODOMO ラムサル in 韓国」を豊岡市と共同開催。小学生 3 名を派遣。
- 平成 21 年 6 月 株式会社「カハラモストファント」から助成金を得て、地中海へのコアモモの植栽に関する研究を実施。
- 平成 23 年 4 月 みどりの日自然環境功労者環境大臣表彰受賞  
(自然ふれあい部門)
- 平成 25 年 3 月 公益財団法人に移行
- 平成 27 年 6 月 今井印刷株式会社と共同で「米子水鳥公園の生態系と野鳥図鑑」  
発刊
- 平成 27 年 10 月 開園 20 周年記念式典、その他記念イベント開催。
- 平成 27 年 12 月 「米子水鳥公園の生きものカク」制作
- 平成 28 年 8 月 「ラムサールシンポジウム in 地中海・宍道湖 2016」を環境省・鳥取県・島根県・大山中海市長会・WIJ・RCJ と共同開催(米子全日空ホテル)
- 平成 29 年 5 月 Jr. レンジャークラブが第 71 回愛鳥週間・平成 29 年度野生生物保護功労者表彰・環境省自然環境局長賞を受賞
- 平成 30 年 12 月 「米子水鳥公園ハートカービング・テコイ公募展」開催  
※水に浮かぶテコイのコンクール開催は日本初
- 平成 31 年 4 月 米子市から「中海生態系調査業務」「米子市こどもエコクラブ実施業務」を受託
- 令和元年 6 月 マツダケン動物絵画展「水に憩う」開催
- 令和 2 年 3 月 国際的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、主催企画の開催を中止。
- 令和 2 年 10 月 開園 25 周年記念式典開催
- 令和 3 年 2 月 鳥取県環境立県推進功労者知事表彰受賞

※米子水鳥公園のこれまでの出来事については、巻末の「米子水鳥公園の歴史」をご覧ください。